

フーリエ級数の概収束に関する関数空間について

東北大 理 佐藤秀一 (Shuichi Sato)

§1. $T = [-\frac{1}{2}, \frac{1}{2}]$, $f \in L^1(T)$ に対して f のフーリエ級数の部分和を

$$S_n(f)(x) = \sum_{k=-n}^n \hat{f}(k) e^{2\pi i k x}$$

とする。ここで

$$\hat{f}(k) = \int_T f(t) e^{-2\pi i k t} dt \quad (k \in \mathbb{Z})$$

である。 $f \in L^p(T)$ ($1 < p \leq \infty$) ならば $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n(f)(x) = f(x)$ a.e. が Carleson - Hunt の結果として知られている。

しかし、 $f \in L^1(T)$ で $S_n(f)(x)$ がすべての点で発散するものが存在することが Kolmogorov によって示されている。 L^1 に近い関数空間でフーリエ級数の概収束するクラスとして

P. Sjölin の $L \log^+ L \log^+ \log^+ L$ が知られている。ここでは、フーリエ級数の概収束する L^1 に近い関数空間として, M. H. Taibleson と G. Weiss の C_θ クラスと R. Fefferman の $L^1(E)$ クラスについて述べる。さらに多変数への拡張についても

ふれよ。

§2. C_q クラス。まず $1 < q \leq \infty$ に対して関数空間 B_q を定義する。

定義1 ([5])。 $b \in L^q(T)$ とする。 $b \in B_q$ とは区間 $I(T)$ が存在して

$$(1) \quad \text{Supp}(b) \subset I$$

$$(2) \quad \|b\|_q \leq |I|^{\frac{1}{q}-1} \quad (q \neq \infty)$$

$$\|b\|_\infty \leq |I|^{-1} \quad (q = \infty)$$

が成立することである。

次に関数空間 C_q を定義する。複素数列 $\{m_k\}_{k=1}^\infty$ に対して $N(\{m_k\}) = \sum_{k=1}^\infty |m_k| \left(1 + \log \frac{\sum_{k=1}^\infty |m_k|}{|m_k|} \right)$ とおく。

定義2 ([5])。 $f \in L(T)$ とする。 $f \in C_q$ ($1 < q \leq \infty$) とは、複素数列 $\{m_k\}_{k=1}^\infty$ で $N(\{m_k\}) < \infty$ あるものと $b_k \in B_q$ ($k = 1, 2, 3, \dots$) が存在して

$$f = \sum_{k=1}^\infty m_k b_k$$

とかけることである。

注意1。定義からすぐわかるように $g_1 \geq g_2$ ならば $C_{g_1} \subset C_{g_2}$ である。

注意2。任意の $f \in L'(T)$ はたとえば $f = \sum_k c_k b_k$, $b_k \in B_\infty$, $\sum |c_k| < \infty$ の形にかけよ。 C_∞ は条件

$\sum |c_k| < \infty$ を $N(\{c_k\}) < \infty$ と少し強くしたもので
ある。

$S^*(f)(x) = \sup_k |S_k(f)(x)|$ とする。Taibleson-Weiss
[5] は次を示した。

定理1 ([5]). 正定数 C が存在して、すべての $\lambda > 0$,
 $f \in C_g$ ($1 < g \leq \infty$), $f = \sum m_k b_k$ に対して

$$|\{x \in T : S^*(f)(x) > \lambda\}| \leq C \frac{N(\{m_k\})}{\lambda}$$

が成立する。

定理1からすぐに次がわかる。

系1. $f \in C_g$ ならば $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n(f)(x) = f(x)$ a.e.

系1の精密さを見るために次の定理を述べておく。

定理2 (J.P. Kahane). $N(\{m_k\}) = \infty$ ならば列 $\{x_k\}_{k=1}^\infty$

$\subset T$ で

$$\sup_n |S_n(\sum_1^\infty m_k \delta_{x_k})(x)| = \infty \quad \text{a.e.}$$

となるものが存在する。これを $\mu = \sum m_k \delta_{x_k}$ として、

$$S_n(\mu)(x) = \sum_{l=-n}^n \int_T e^{-2\pi i l t} d\mu(t) e^{2\pi i l x} \text{ である.}$$

§3. R. Fefferman の entropy.

定義3 [1]. Lebesgue 測度を $|T| = \frac{1}{e}$ と正規化する。

$S \subset T$ に対し?

$$E(S) = \inf \left\{ \sum_{k=1}^\infty |I_k| \log \frac{1}{|I_k|} : S \subset \bigcup_k I_k, I_k(T) \text{ は閉区間} \right\}$$

間},

とする. T 上の可測関数 f に対して

$$J(f) = \int_0^\infty E(\{x \in T; |f(x)| > \lambda\}) d\lambda$$

$\times L$, $L^1(E) = \{f; J(f) < \infty\}$ とする.

R. Fefferman によつて

(1) $c > 0$ が存在して

$$J(f) \leq c \left(\int_T \int_T \frac{|f(x) - f(y)|}{|x-y|} dx dy + \|f\|_1 \right)$$

"成立する,

(2) $f \in L^1(E)$ ならば $f \in L \log^+ L$

"示されてる.

定理3([4], [5]). $f \in L^1(E)$ ならば

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n(f)(x) = f(x) \quad a.e.$$

§4. 多変数の場合. $Q_d = \{x \in \mathbb{R}^d; -\frac{1}{2} \leq x_i \leq \frac{1}{2}, i=1, 2, \dots, d\}$

とする. $f \in L^1(Q_d)$ に対して $\hat{f}(n) = \int_{Q_d} f(x) e^{-2\pi i n \cdot x} dx$

$n = (n_1, \dots, n_d) \in \mathbb{Z}^d$, $n \cdot x = \sum_{i=1}^d n_i x_i$ とし,

critical index における多変数 Fourier 級数 $\sum \hat{f}(n) e^{2\pi i n \cdot x}$

の Bochner-Riesz 平均を

$$S_R^{\frac{d-1}{2}}(f)(x) = \sum_{|n| \leq R} \left(1 - \frac{|n|^2}{R^2}\right)^{\frac{d-1}{2}} \hat{f}(n) e^{2\pi i n \cdot x}$$

とする. $|n| = (\sum_{i=1}^d n_i^2)^{\frac{1}{2}}$.

Q_d 上の関数 f に対して $J(f)$ を T におけると同様にし

で定義する。すなはち $S \subset Q_d$ に対して

$$E(S) = \inf \left\{ \sum_{k=1}^{\infty} |I_k| \log \frac{1}{|I_k|} : S \subset \bigcup_{k=1}^{\infty} I_k, I_k (\subset Q_d) \text{ is closed} \right.$$

cube }

$\times \subset (f=f_2)$ (Lebesgue 測度を $|Q_d|=\frac{1}{d!}$ と正規化する),

$$J(f) = \int_0^\infty E(\{x \in Q_d : |f(x)| > \lambda\}) d\lambda$$

とする。

定理4 ([2], [4]). $J(f) < \infty$ ならば

$$\lim_{R \rightarrow \infty} S_R^{\frac{d-1}{2}}(f)(x) = f(x) \quad a.e.$$

注意3. $L'(E) = \{f : J(f) < \infty\}$, とすると

$L(E) \subset H^1$ である. $f \in H^1$ で $S_R^{\frac{d-1}{2}}(f)(x)$ が (ほとんどの)すべての点で発散するものが存在することを [3] で示さ

れ f_2 .

文献

[1] R. Fefferman, A theory of entropy in Fourier analysis, Advances in Math. 30 (1978), 171 - 201.

[2] S. Z. Lu, M. Taibleson, and G. Weiss, On the almost-everywhere convergence of Bochner-Riesz means of multiple Fourier series, Lecture Notes in Math. 908 (1982), Springer, 311 - 318.

- [3] E. M. Stein, An H^1 function with non-summable Fourier expansion, Lecture Notes in Math. 992 (1983), Springer, 193 - 200.
- [4] S. Sato, Entropy and almost everywhere convergence of Fourier series, Tôhoku Math. J. 33 (1981), 593 - 597.
- [5] M. Taibleson and G. Weiss, Certain function spaces connected with almost everywhere convergence of Fourier series, Proceedings of the Conference on Harmonic Analysis, in Honor of Antoni Zygmund, Wadsworth, Vol I (1982), 95 - 113.